

センター試験 理科総合B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：4題	解答数：28問
難易度の変化（対昨年比）	○ 難化 ○ やや難化	● ほぼ同じ ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ ○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

大問数は昨年通り4題であったが、マーク数は1つ減少して28となった。

例年通り、身近な事項に関して「資料を調べる」「資料を読み解く」「観察する」「実験方法を考える」「実験する」「実験結果を整理する」「考察する」という、理科総合の趣旨に沿った題材の問題が多く出題された。これらの問題は決して難しいわけではないが、日常的に考える習慣がついていない受験生には解きにくく、また、いわゆる「受験勉強」ではカバーしにくいいため、得点差が出やすい科目といえるだろう。

生物分野では、久しぶりに遺伝が出題され、しかも受験生が解きにくい設問であったため、面食らった受験生も多いだろう。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	実験と観察の方法 A 太陽放射 B 植物のからだ	25点	資料グラフの読み取り、実験方法に関する注意事項、実験結果に関する考察。 Aは地学分野、Bは生物分野の内容であるが、いずれも頻出の「自由研究」という設定になっており、身近な現象に対して探求する姿勢を喚起する問題になっている。
第2問	A プレートの移動 B 遺伝	25点	A. 地学分野のプレートテクトニクスに関する基本事項を問う問題。 B. 生物分野の遺伝に関する基本事項を問う問題。 問6bは自家受精の問題で、生物分野をきちんと学習していなければ解けない。
第3問	火山、生態系	25点	ハワイ島とガラパゴス諸島を題材とした、「プレート移動」「火山」「天気と植生」「エネルギー移動」などに関する総合的な問題。概ね、問1～問3は地学分野、問4～問7は生物分野に該当する。問5（エネルギーの流れ）と問6（生態系の構成・生物の多様性）は各単元のつながりを意識せずに学習してきた受験生にとって難しい。
第4問	温暖化と都市化	25点	A. 気温変化のグラフを利用して、温暖化や都市化について考える問題。 B. 緑化と気温変化に関する実験の問題。資料を読み取る問題が中心であるが、与えられている資料はわかりやすくまとめられており、難しくはない。